

- 問1 宮崎県の産業構造や農業の特徴について述べた文として、統計的な背景から判断して最も適切なものはどれですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
- 温暖な気候や広大な土地を背景に、農業産出額の半分以上を畜産業が占めており、製造業よりも第1次産業の比重が相対的に高い。
 - 急峻な傾斜地を利用した段々畑において、みかんやいよかんなどの果樹栽培が盛んで、農業産出額の大部分を占めている。
 - 亜熱帯の気候条件を活かし、サトウキビやマンゴーなどの商品作物の栽培と、冬の温かさを利用した観光業に特化している。
 - 瀬戸内工業地域の一角を担っており、化学工業や機械工業などの製造品出荷額が、農業産出額を大幅に上回っている。
- 問2 熊本県の農業統計において、農業産出額が1,247億円に達する「野菜」と、1,147億円に達する「畜産」が大きな割合を占めている特色について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
- 果実と花きの生産に特化した構造となっており、野菜や畜産の産出額は全国平均を下回っている。
 - 広大な平野を利用した稲作に特化しており、農業産出額の大部分を米が占めている。
 - 近郊農業の特性を活かして野菜の生産のみに集中しており、畜産や米の生産はほとんど行われていない。
 - 米、野菜、畜産、果実などがバランスよく生産されており、特に野菜と畜産の産出額が非常に高い水準にある。
- 問3 九州地方南部に位置する鹿児島県の大隅半島などには、「シラス台地」と呼ばれる火山灰が厚く堆積した地形が広がっています。この地域で肉用牛や豚などの畜産業が盛んになった地理的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
- 広大な台地をすべて森林にする計画があったが、火山ガスの影響で樹木が育たず、やむを得ず畜産に転換した。
 - シラス台地は標高が高く一年中冷涼な気候であるため、暑さに弱い肉用牛の飼育に適した環境であった。
 - 火山灰に含まれる特殊な鉱物資源が家畜の飼料として最適であり、周辺の県からも家畜が集まるようになった。
 - シラスは非常に水はけが良く、水田稲作に必要な水を保持しにくかったため、土地を広く活用できる畜産が発展した。
- 問4 鹿児島県に広く見られる、標高30m程度の平坦な面を持つ火山噴出物の台地では、その土壌の性質から、古くから土地利用に工夫がなされてきました。この地域の自然環境と農業の関係について説明した文として、最も適切なものを選択してください。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- 堆積物が栄養分を豊富に含んでいるため、特別な肥料なしで稲の二期作が行われた。
 - 土壌が常に湿潤であるため、低湿地での栽培に適したレンコンの生産が盛んになった。
 - 土壌の保水力が極めて高いため、大規模な稲作地帯として開発が進んだ。
 - 水はけが非常に良く水田に適さないため、サツマイモなどの畑作や畜産が発展した。
- 問5 宮崎県の農業統計において、2020年の品目別生産量で全国1位となっている作物はどれですか。この作物は宮崎平野を中心に盛んに栽培されています。 (2023年 福島県公立入試 類似)
- きゅうり
 - さつまいも
 - てんさい
 - ねぎ
- 問6 沖縄県の産業構造が、他の都道府県と比較して第三次産業の割合が非常に高い理由として、地理的背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 福岡県公立入試 類似)
- 広大な平野と豊かな水資源を活用した大規模な稲作が行われ、それに関連する製造業が発達したため。
 - 高緯度で冷涼な気候を活かし、大規模な機械化農業と乳製品の加工販売が一体化しているため。
 - 低緯度による温暖な気候やサンゴ礁などの自然資源を活かした観光業が、地域の経済を支える基幹産業となっているため。
 - 内陸部に位置し、海から遠いため、海上輸送に依存しない精密機械工業や高度な情報産業が集中したため。
- 問7 九州地方の再生可能エネルギーに関する調査報告において、大分県には日本最大級の出力規模を誇る八丁原発所があることが紹介されています。この発電所が位置する自治体名を次から選びなさい。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
- 長崎県雲仙市
 - 熊本県阿蘇市
 - 大分県九重町
 - 鹿児島県霧島市
- 問8 九州地方の政治・経済の中核である福岡県の産業的特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、統計資料によれば、福岡県の2010年時点の製造品出荷額は5兆円から10兆円未満の規模にあり、1980年からの30年間で約41.4%増加しています。 (2016年 東京都公立入試 類似)
- 北九州工業地帯が九州全域の製造品出荷額の9割以上を占めており、福岡市などの都市部には工業機能が一切存在しないという極端な偏りが見られる。
 - 県庁所在地の福岡市には政府の最先機関や企業の支店が集中し、工業面では近年、内陸部を中心に自動車工業などの組み立て型工業が発展している。
 - 1980年代から2010年にかけて製造品出荷額は減少を続けており、現在は製造業よりも広島県などの周辺県との貿易による仲継貿易が中心となっている。
 - 九州地方最大の工業県であるが、製造品出荷額の大部分は依然として戦前からの繊維工業や造船業などの軽工業によって占められている。
- 問9 鹿児島県に広く分布する「シラス台地」の土壌の性質として、現地の農業に最も大きな影響を与えている特徴はどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
- 粘土質で栄養分が豊富であり、稲作に非常に適している
 - 川が運んだ土砂でできており、水を通にくい
 - サンゴ礁が隆起してきたため、アルカリ性が非常に強い
 - 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくい
- 問10 沖縄県の農業は、温暖な気候を活かした亜熱帯農業が特徴です。農業産出額の品目別割合を示した統計において、さとうきびなどの工芸作物を含む項目の割合が約40パーセントに達し、全国的に見ても独自の構成となっています。この項目に含まれる、沖縄県で生産が盛んな代表的な工芸作物はどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- 茶
 - さとうきび
 - 稲（米）
 - 野菜
- 問11 沖縄県の伝統的な家屋において、家の周囲を石垣で囲んだり、フクギなどの防風林を植えたりする工夫が見られる主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- 冬の時期に吹く冷たい季節風が室内に入るのを防ぐため
 - 地震が発生した際の家屋の倒壊を石の重みで食い止めるため
 - 台風による強い風の被害を最小限に抑えるため
 - 津波が住宅地に浸水してくるのを物理的に遮断するため
- 問12 鹿児島県の農業産出額は約4435億円と非常に高く、そのうちの約2837億円が畜産によって生み出されています。このように畜産の割合が極めて高い背景にある、この地域の自然環境の説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
- 平野が少なく山がちであるため、急斜面を利用した果樹栽培が中心となったため
 - 年間を通して温暖で降水量が多く、二期作などの米づくりに適していたため。
 - 火山噴出物が積もったシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。
 - 季節風の影響を強く受けるため、寒冷な気候に強い作物の栽培が優先されたため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 温暖な気候や広大な土地を背景に、農業産出額の半分以上を畜産業が占めており、製造業よりも第1次産業の比重が相対的に高い。	宮崎県は九州南部に位置し、黒潮の影響を受けた温暖な気候に恵まれています。この気候を活かした促成栽培のほか、広大な土地での肉用牛や豚、鶏の飼育といった畜産業が極めて盛んです。宮崎県の農業産出額の構成を見ると、畜産が圧倒的な割合を占めている点が、工業化が進んだ岡山県や果樹農業に特化した愛媛県、亜熱帯農業が中心の沖縄県との決定的な違いです。
問2	答え 4 米、野菜、畜産、果実などがバランスよく生産されており、特に野菜と畜産の産出額が非常に高い水準にある。	熊本県の農業は、特定の品目に依存せず、米、野菜、畜産、果実、花きなどが幅広く生産されているのが大きな特徴です。2016年の統計データによれば、野菜の産出額が約1,247億円、畜産が約1,147億円となっており、これら2つの分野が県全体の農業経済を支える大きな柱となっています。
問3	答え 4 シラスは非常に水はけが良く、水田稲作に必要な水を保持しにくかったため、土地を広く活用できる畜産が発展した。	鹿児島県に広がるシラス台地は、過去の火山活動による火砕流堆積物が積み重なってできた地形です。この土壌は水分を地中に通しやすい（水はけが良い）という性質を持っているため、大量の水を蓄える必要がある水田稲作には不向きでした。その代わり、サツマイモなどの畑作や、広大な土地を有効活用できる肉用牛、豚、鶏などの畜産業が大きく発展し、現在では日本有数の畜産地帯となっています。
問4	答え 4 水はけが非常に良く水田に適さないため、サツマイモなどの畑作や畜産が発展した。	シラス台地は火山灰などが厚く積もってできており、水分が地下に浸透しやすいため、水を溜めておく必要がある水田稲作には適していません。そのため、江戸時代に伝来したサツマイモのように、水はけが良く乾燥した土地でも育つ作物の栽培が広がりました。近年ではスプリングクラーなどの灌漑施設の整備により、野菜栽培や畜産も盛んになっています。
問5	答え 1 きゅうり	宮崎平野では冬の温暖な気候を利用して、きゅうりの栽培が非常に盛んに行われています。選抜枝にある「さつまいも」は隣の鹿児島県、「てんさい」は北海道が主な産地として知られています。宮崎県はこのきゅうりなどの生産において、全国でもトップクラスのシェアを誇ります。
問6	答え 3 低緯度による温暖な気候やサンゴ礁などの自然資源を活かした観光業が、地域の経済を支える基幹産業となっているため。	沖縄県は日本列島の南端に位置し、緯度が低いため年間平均気温が高いという地理的特性を持っています。また、周囲を海に囲まれ、美しいサンゴ礁が発達していることから、これらを観光資源としたレジャー・サービス業が発展しました。一方で、島嶼部であるために大規模な工業用地の確保や原材料の輸送コストに課題があり、重化学工業などの第二次産業よりも、自然環境を資源とする第三次産業が中心の構造になっています。
問7	答え 3 大分県九重町	大分県九重町にある八丁原（はっちょうばる）発電所は、火山活動が活発な九州地方の特性を活かした日本最大級の地熱発電所です。大分県は温泉の湧出量も日本一であり、豊富な熱エネルギーを電力供給に活用している地域的な特色があります。
問8	答え 2 県庁所在地の福岡市には政府の出先機関や企業の支店が集中し、工業面では近年、内陸部を中心に自動車工業などの組み立て型工業が発展している。	福岡市は九州地方の広域行政や経済の拠点としての役割を果たしており、多くの公的機関や企業の支店が集まる三次産業の強い都市です。一方で、二次産業である工業に目を向けると、かつての重化学工業偏重から脱却し、自動車工業などの成長産業が内陸部に展開したことで、30年間で40%を超える高い出荷額の伸びを記録しました。
問9	答え 4 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくい	シラス台地は過去の火山活動による火砕流などの噴出物が積み重なって形成されました。この土壌は粒子が粗く「水を通しやすい（水はけが良い）」という特性を持っています。そのため、常に水を張る必要がある水田稲作には向かず、古くからサツマイモや茶などの畑作、そして畜産を中心とした農業が発展してきました。
問10	答え 2 さとうきび	沖縄県は年間を通じて温暖な亜熱帯気候に属しており、他の都道府県では栽培が困難な作物が中心となっています。特に、砂糖の原料となる「さとうきび」は、加工を目的として栽培される「工芸作物」に分類されます。沖縄県ではこの工芸作物の産出額が非常に大きく、統計上でも大きな割合を占めているのが特徴です。一方で、水資源の確保が難しい島嶼部の特性などから、稲作の割合は極めて低くなっています。
問11	答え 3 台風による強い風の被害を最小限に抑えるため	沖縄県は地理的に台風の通り道（台風銀座）にあたり、夏から秋にかけて非常に強い風に見舞われることが多いため、生活を守るための防災上の工夫が発達しました。石垣や防風林は、建物に直接吹き付ける強風を分散させたり和らげたりする役割を果たしています。また、屋根瓦を漆喰で固めるのも、風で瓦が飛ばされないようにするための工夫です。
問12	答え 3 火山噴出物が積もったシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。	鹿児島県（特に大隅半島や薩摩半島）には、桜島などの火山活動による堆積物でできたシラス台地が広がっています。シラス台地は水が染み込みやすく、大規模な水田を作るのが難しかったことから、古くからサツマイモや茶などの畑作、そして広大な土地を活かした肉用牛や豚の飼育といった畜産業が盛んになりました。この歴史的な土地利用の背景が、現代の高い畜産産出額につながっています。